

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)

1. 一般事項

- (1) 構造図面に記載された事項は、本標準図に優先して適用する
- (2) 記号
d- 異形棒鋼の呼び名に用いた数値/丸鋼では径 D-部材の成 R-直径
@-間隔 r-半径 C-中心線 L0-部材間の内法距離0-部材間の内法高さ
ST-あばら筋 HOOP-帯筋 S.HOOP-補強帯筋 φ-直径又は丸鋼

2. 鉄筋加工、かぶり

(1) 鉄筋末端部の折曲げの形状

折曲げ角度	180°	135°	90°	折曲げ角度 90° はスラブ筋 壁筋の末端部またはスラブと同時 に打ち込むT形およびL形 のキャップタイにのみ用いる。
図				
鉄筋の余長	4d以上	6d以上(*4d以上)	8d以上(*4d以上)	
折曲げ内法寸法	SR235は3d以上、SD295A、SD295B、SD345はD16以下は、3d以上、D19以上は4d以上			
	*片持スラブ上端筋の先端			

(2) 鉄筋中間部の折曲げの形状

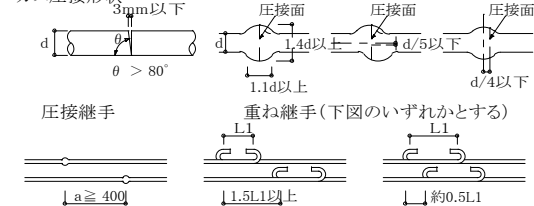
図	鉄筋の使用箇所による呼称	鉄筋の種類	鉄筋の折曲げ角度 90° 以下	
			鉄筋の径による区分	鉄筋の折曲げ内法の寸法(R)
	帯筋 あばら筋 スパイラル筋	SR235 SD295A B SD345	16φ以下 D16以下	3d以上
	上記以外の鉄筋	SR235 SD295A B SD345	19φ以上 D19以上	4d以上
			16φ以下 D16以下	3d以上
			19φ~25φ D19~D25	6d以上
			28φ~32φ D29~D38	8d以上

(3) 鉄筋の定着及び重ね継手の長さ

鉄筋の種類	普通、軽量コンクリートの設計 基準強度の範囲 (N/mm ²)	定着の長さ		特別の定着 及び 重ね継手の長さ (L1)
		一般(L2)	下端筋(L3)	
			小梁	スラブ
SD295A SD295B SD345	18以下	40d		45d
	21~ 27	40d		40d
	30~ 45	40d	25dまたは 15dフックつき	40d
	30~ 45	40d		40d
SD390	21~ 27	40d		45d

継手

- 末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
- 継ぎ手位置は、応力の小さい位置に設けることを原則とする
- 直径の異なる鉄筋の重ね継手長さは、細い方の鉄筋の継手長さとする
- D29以上の異形鉄筋は、原則として、重ね継手としてはならない
- 鉄筋径の差が7mmを超える場合は、圧接としてはならない



(4) かぶり厚さ (単位:mm)

ひびわれ誘発目地部など鉄筋のかぶり厚さは、最小かぶり厚さを確保する

柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。



かぶり厚さ

部位			最小かぶり厚さ (mm)	
土に 接しない部分	スラブ 非耐力壁	仕上げあり	20	
		仕上げなし	30	
	柱、壁柱 梁、 耐力壁	屋内	仕上げあり	30
			仕上げなし	30
		屋外	仕上げあり	30
				仕上げなし
	擁壁、耐力スラブ		40	
土に 接する部分	柱・はり・スラブ・壁		*40	
	基礎・擁壁、耐力スラブ		*60	
	煙突等高熱を受ける部分		60	

- 注) (1) *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は、特記による。
- (2) 「仕上げあり」とはモルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ(仕上塗材、塗装等)のものを除く。
- (3) スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含めない。
- (4) 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
- (5) 塩害を受ける恐れのある部分等、耐久性上不利な箇所は、特記による。

(5) 鉄筋のあき

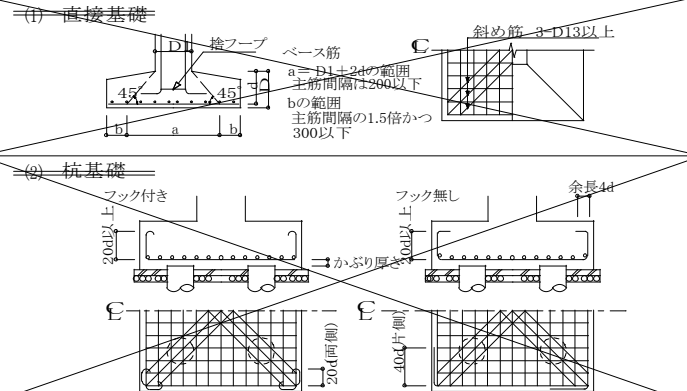
丸鋼では径、異形鉄筋では呼び名に用いた数値1.5d以上粗骨材の最大寸法の1.25倍以上かつ25以上



(6) 鉄筋のフック (a~fに示す鉄筋の末端部にはフックを付ける)

- a. 丸鋼 b. あばら筋、帯筋、煙突の鉄筋
d. 柱、梁(地中梁は除く)の出すみ部分の鉄筋(右図参照)
e. 単純梁の下端筋
f. その他、本配筋標準に記載する箇所

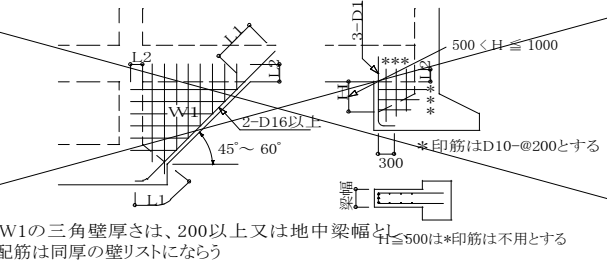
3. 基礎



(3) ベタ基礎、布基礎

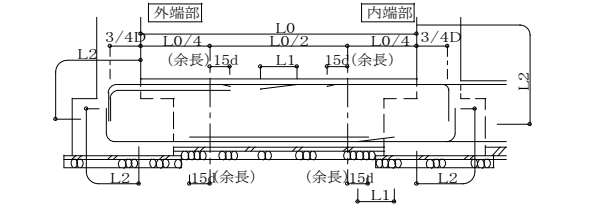
- 耐圧版鉄筋の継手位置は床スラブにならう但し上筋と下筋を読みかえる
- 埋戻し土のある場合は上端の40mmを70mmとするハンチを付けた場合(a≥3)
- ①の鉄筋はスラブ主筋の径以上とする
- ②の鉄筋はD13以上

(4) 基礎接合部の補強

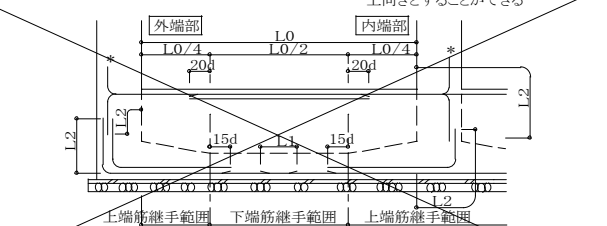


4. 地中梁

(1) 独立基礎、杭基礎の場合(定着、継手)

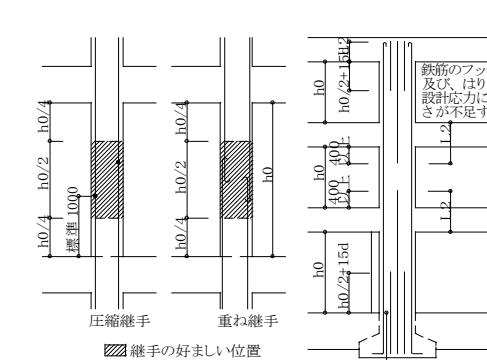


(2) 布基礎、ベタ基礎の場合(定着、継手)

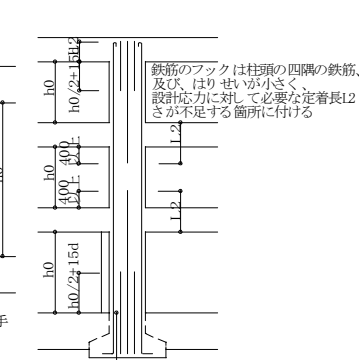


5. 柱

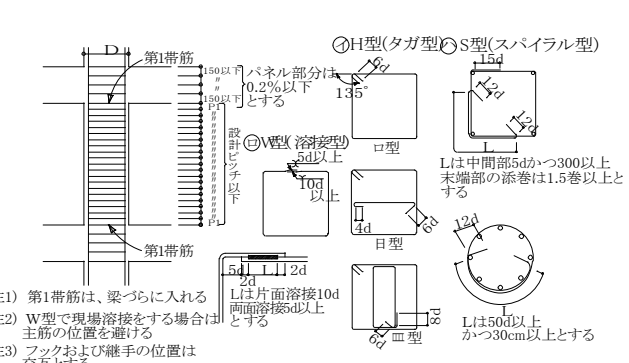
(1) 柱主筋の継手



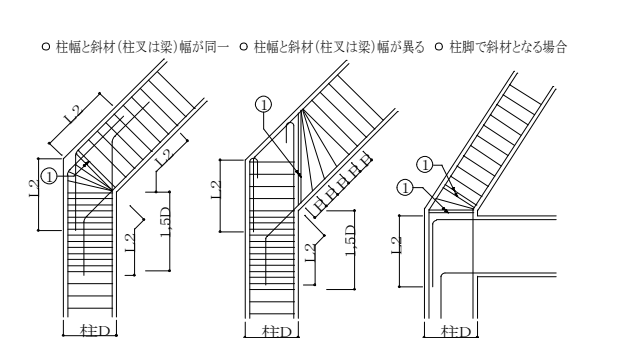
(2) 柱主筋の定着



(3) 帯筋

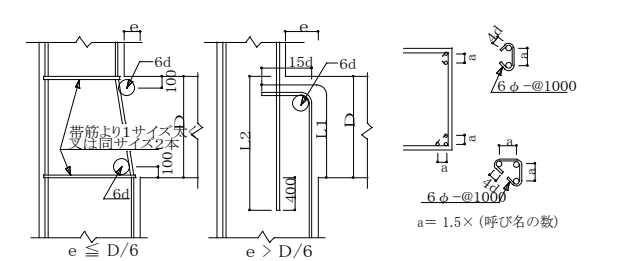


(4) 斜め柱・斜め梁

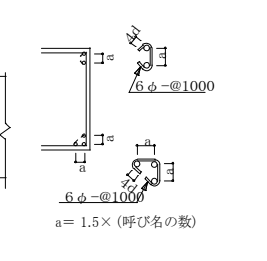


- 注1) 1.5Dの範囲の柱の帯筋は一段太いものか、又はダブル巻きとし@100以下とする
注2) ①の鉄筋は2-D13かつ、2本の一段太い鉄筋とする

(5) 絞り

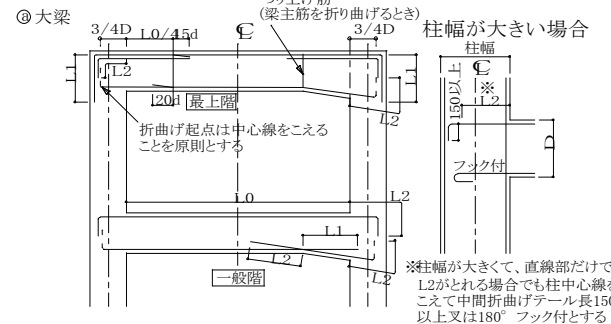


(6) 二段筋の保持

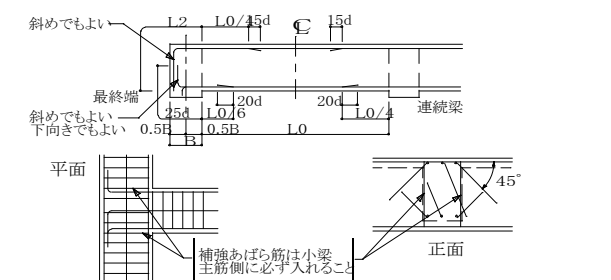


6. 大梁、小梁、片持梁

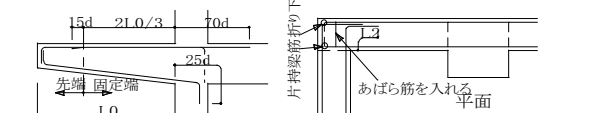
(1) 定着



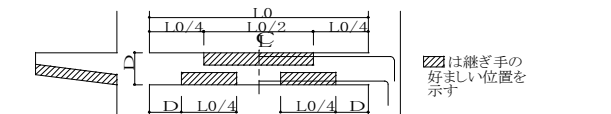
① 小梁の定着



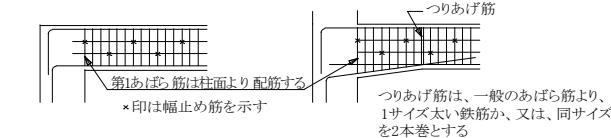
② 片持梁の定着



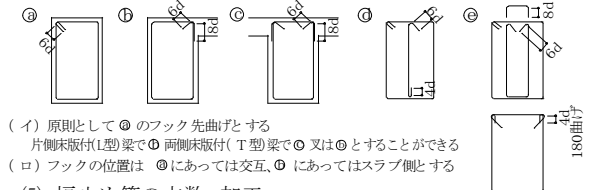
(2) 大梁主筋の継手



(3) あばら筋、腹筋、幅止め筋の配置



(4) あばら筋の型



(5) 幅止め筋の本数、加工

腹筋	D<600 不要 600≤D<900 2-D10(9φ) 1段 900≤D<1200 4-D10(9φ) 2段 1200≤D D10(9φ)@800 以内
幅止め筋	D10(9φ)@1000内で割り付ける

revisions			

consultant

project no.

上野東町ポケットパーク整備工事

鉄筋コンクリート標準配筋図(1)

S-002

date

drawn by

checked by

scale

鉄筋コンクリート構造配筋標準図(2)

鉄筋の定着及び重ね継手の長さLは、鉄筋コンクリート構造配筋標準図(1)の2-(3)による

7. 床版

(1) 定着および継手

③ 片持床スラブ

① 一般床スラブ

継手位置は原則として下表による

		標準継手位置
上端筋	短辺方向	B
	長辺方向	B
下端筋	短辺、長辺方向	A、C

(2) 屋根スラブの補強

(3) 片持ちスラブ出隅部補強

(4) 床版開口部の補強

(5) 床版段差

(6) 土間コンクリート

(7) 釜場

(8) 打継ぎ補強

8. 壁

(1) 定着

② 梁に

① 柱に

③ 床に(非耐力壁とスラブが取り合う場合)

④ 壁と壁(平面図)

(2) スリット部

(3) 手摺、バラベット

(4) コンクリートブロック帳壁

9. 柱、梁増打コンクリート補強

(2) 梁

補強筋 (D16-250@)

あばら補強筋

側部の補強筋は、梁主筋と同径 (D16以上) とする

・上端及び下端の補強筋は、D16-250@程度とする

・あばら補強筋は、梁と同径、同ピッチとする

・腹筋D10ピッチは、梁の腹筋と合せる

・a は100~200程度

・梁下端増打コンクリートの場合も、上端増打コンクリート補強と同様とする

・ハッチ部分は増打コンクリートを示す

10. 梁貫通孔補強

(1) 設置可能範囲

梁端部(1.2D以内)は原則として避ける

(φ1+φ2)×3/2以上

貫通孔が連続して間隔等が取れない場合は、設計者又は工事監督員と打合せのこと

注) 特記なき場合梁端部の離間距離は計算で確認された場合、左記の位置によりなくてよい。

孔の上下方向の位置

・dは下記の通りとする。

500≦D<700 ... d≧175

700≦D<900 ... d≧200

900≦D ... d≧250

定着長さのとり方

(2) 鉄筋標準配筋

但し φ ≦ D/3とする φ ≦ 0.1Dであれば無補強でもよい

80 ≦ φ ≦ 100	100 < φ ≦ 150	150 < φ ≦ 250
折筋 2-(2-D13)	折筋 2-(2-D13)	斜筋 4-(2-D13)
縦筋 ST2-D13	縦筋 ST2-D13-@100	縦筋 ST2-D13-@100
	横筋 2-(2-D13)	横筋 2-(2-D13)
		縦筋 ST2-D13

・梁幅が400を超える場合は補強筋でD13、D16と、2-D13はD13と、各々読みかえる

(3) 既製品

（使用については、資料及び計算書を提出して工事監督員の承認を得ること）

☐ リング型 ☐ パイプ型 ☐ 金網型 ☐ プレート型

revisions			

consultant

project no.

上野東町ポケットパーク整備工事

鉄筋コンクリート標準配筋図(2)

S-003

date

drawn by

checked by

scale

壁式鉄筋コンクリート構造標準図

1. 鉄筋のかぶり厚さ

- a. かぶり厚さは、設計図による。設計図に示されていない場合の最小かぶり厚さは下表による。
- b. 外壁面は雨水の浸透防止、耐久性確保のため必要に応じて、適切な防水処理をする。
- c. コンクリートの水切りおよび打継ぎ目地では、目地底面よりのかぶり厚さとする。また、目地には有効な防水・耐久性の措置をとる。

構造部材	最小かぶり厚さ
床および屋根スラブ	20mm
耐力壁	30mm
非耐力壁	20mm
壁梁・小梁	30mm
基礎の立上がり部分、基礎梁および基礎つなぎ梁	40mm
基礎	60mm

注) 1) 耐久性上有効な仕上げがない場合は屋内・屋外にかかわらず10mm増しとする。

2) 片持ちスラブ先端は30mmとする。

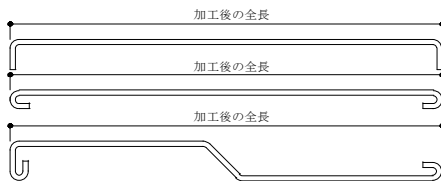
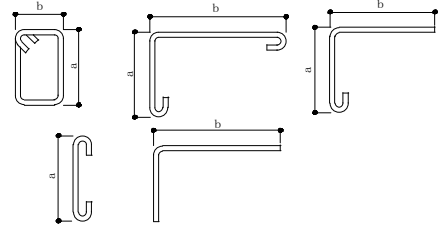
2. 鉄筋の加工

鉄筋の加工は、鉄筋加工図に従い、冷間加工とし、加工寸法は下表の許容差以内とする。

項目	符号	許容差(mm)
各加工寸法 ^{a)}	あばら筋、壁梁断面の縦・横筋	a,b ± 5
	その他の鉄筋	a,b ± 10
加工後の全長 ^{b)}		± 15

※各加工寸法および加工後の全長の測り方の例を下図に示す。

あばら筋、壁梁断面の縦・横筋



3. バースポート・スペーサー

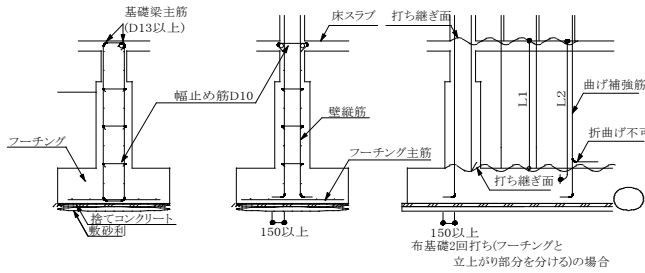
バースポート・スペーサーの配置および間隔は設計図に指示のない場合は、下表を標準とする。

部位	壁・地下外壁	壁梁・がりよう・小梁	布基礎	布基礎の立上り部分・基礎梁基礎つなぎ梁	スラブ
種類	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製	鋼製・コンクリート製
数量または配置	上第一横筋に設置、左右第一縦筋に設置 間隔は1.5m程度	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	間隔は1.5m程度 端部・交差部に設置 断面中央部鉄筋に設置	間隔は1.5m程度 端部は1.5m以内	上端筋、下端筋それぞれ、1.3個/m程度 間隔は0.9m程度
備考	外側梁以外の梁は上または下に設置、外側梁は側面にも設置		ベース筋のある場合はベース筋にも設置	上または下と側面に設置	片持ちスラブには、2箇所以上連続するバースポートを設置

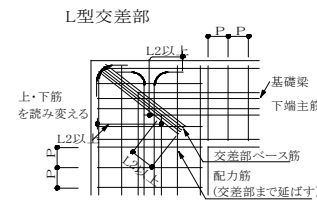
注) 壁・壁梁・がりよう・小梁・布基礎の立ち上り部分・基礎梁基礎つなぎ梁のスペーサーはプラスチック製でもよい。

4. 基礎

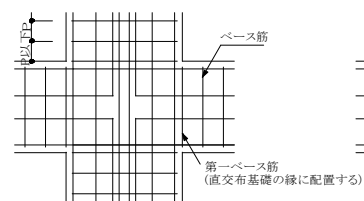
4.1 布基礎



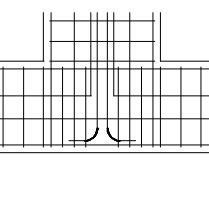
布基礎交差部の配筋(平面)



十型交差部

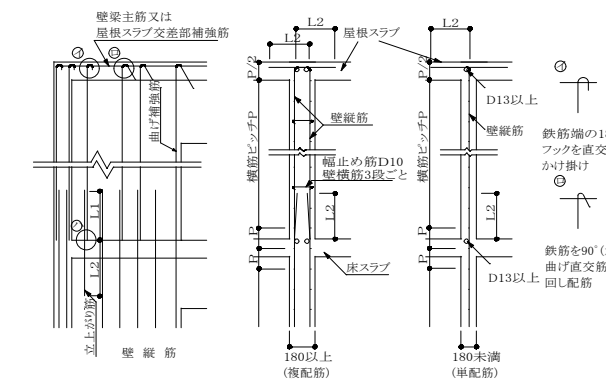


T型交差部



5. 耐力壁

5.1 縦筋・曲げ補強筋・縦補強筋の定着

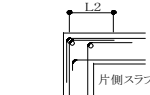


耐力壁と床・屋根スラブ

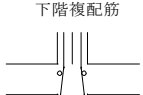
① 単配筋



② 複配筋

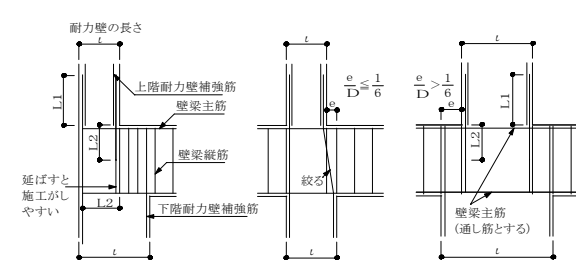


③ 上階単配筋
下階複配筋

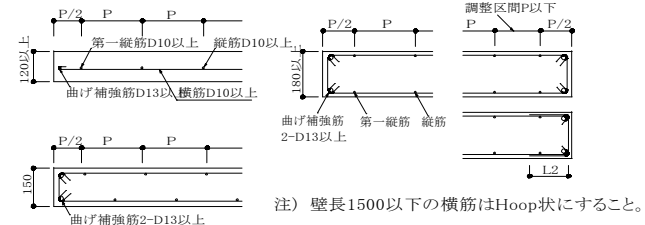


※ はD13以上

5.2 上・下階耐力壁の各種配置



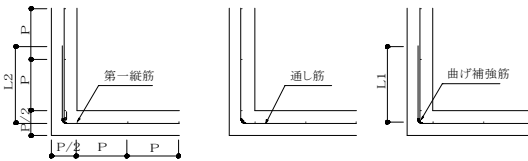
5.3 耐力壁の縦・横筋の配置



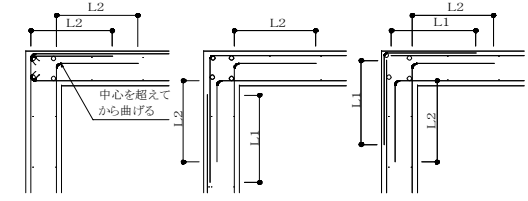
5.4 耐力壁が交差する場合の定着(平面)

a. L型交差部の縦・横筋などの配置

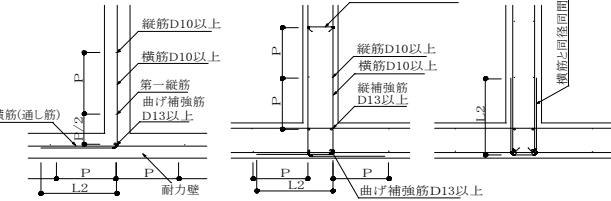
単配筋の場合



複配筋の場合

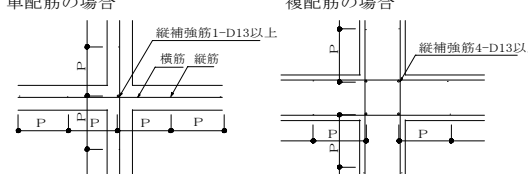


b. T型交差部の縦・横筋などの配置

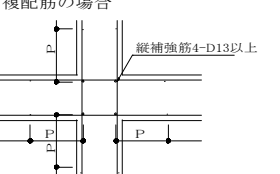


c. 十型交差部の縦・横筋などの配置

単配筋の場合

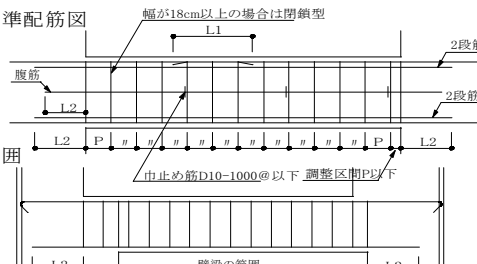


複配筋の場合



6. 壁 梁

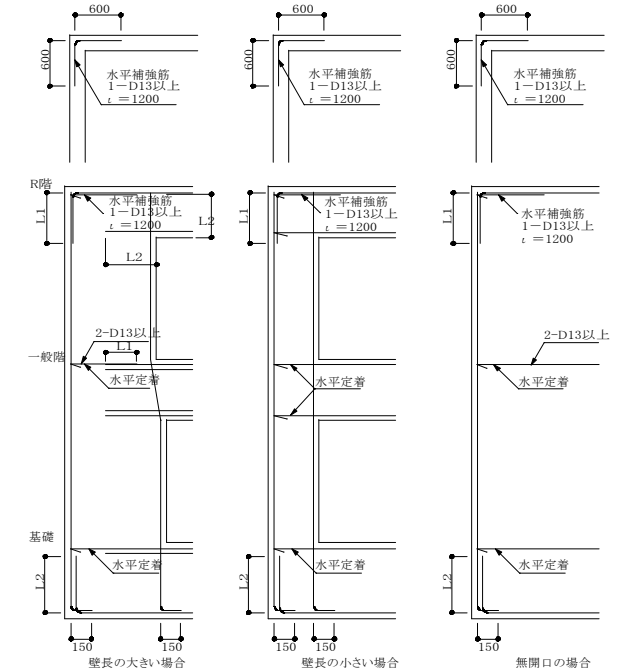
6.1 壁梁の標準配筋図



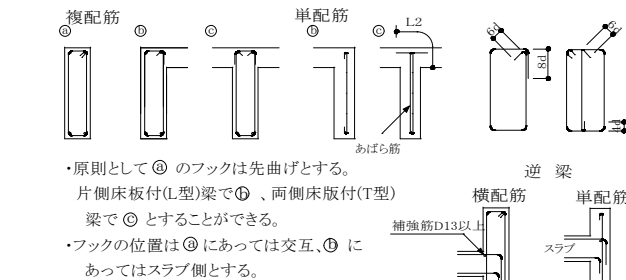
6.2 壁梁の範囲



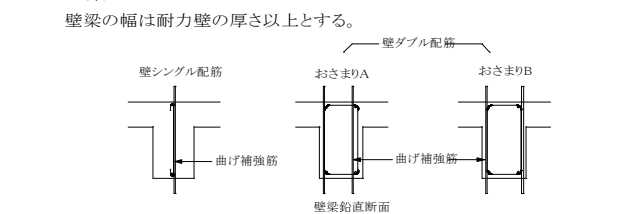
6.3 壁梁主筋の定着



6.4 あばら筋の型



6.5 壁梁と壁のおさまり



revisions					

consultant

project no.

上野東町ポケットパーク整備工事

date

drawn by

checked by

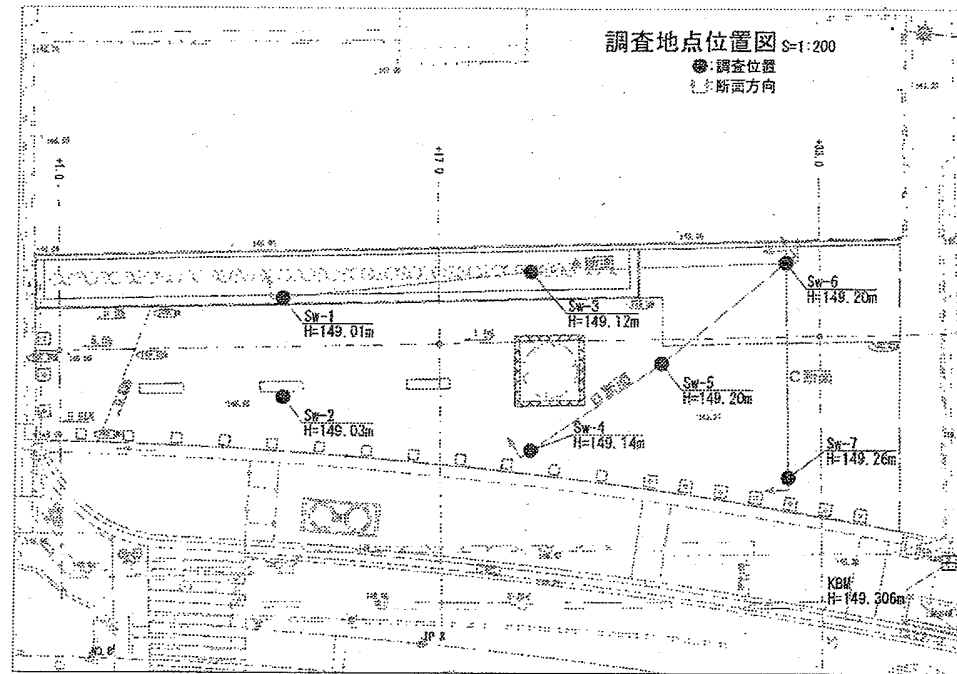
壁式鉄筋コンクリート構造標準図

-

scale

-

S-004



調査地点位置図 S=1:200

● 調査位置
▲ 断面方向

調査点	標高 (m)
Sw-1	149.01
Sw-2	149.03
Sw-3	149.12
Sw-4	149.14
Sw-5	149.20
Sw-6	149.20
Sw-7	149.26
KBM	149.306

調査地点位置図 S=1:200

● 調査位置
▲ 断面方向

調査点	標高 (m)
Sw-1	149.01
Sw-2	149.03
Sw-3	149.12
Sw-4	149.14
Sw-5	149.20
Sw-6	149.20
Sw-7	149.26
KBM	149.306

調査地点位置図 S=1:200

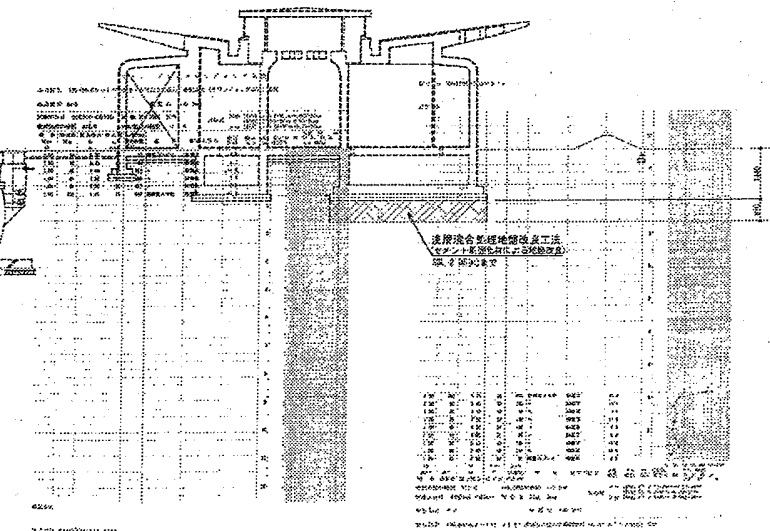
● 調査位置
▲ 断面方向

調査点	標高 (m)
Sw-1	149.01
Sw-2	149.03
Sw-3	149.12
Sw-4	149.14
Sw-5	149.20
Sw-6	149.20
Sw-7	149.26
KBM	149.306

調査地点位置図 S=1:200

● 調査位置
▲ 断面方向

調査点	標高 (m)
Sw-1	149.01
Sw-2	149.03
Sw-3	149.12
Sw-4	149.14
Sw-5	149.20
Sw-6	149.20
Sw-7	149.26
KBM	149.306



調査地点位置図 S=1:200

● 調査位置
▲ 断面方向

調査点	標高 (m)
Sw-1	149.01
Sw-2	149.03
Sw-3	149.12
Sw-4	149.14
Sw-5	149.20
Sw-6	149.20
Sw-7	149.26
KBM	149.306

SWS試験データシート S=1/200

revisions

consult

project no.

11 上野東町がけつパーク

date
18.08.13

drawn by

checked by

土質柱状図

S-005

scale

浅層混合地盤改良特記仕様書

工 事 名 上野東町ポケットパーク整備工事
工 事 場 所 三重県伊賀市上野東町

1. 工事概要

本地業はセメント 固化材を用いた機械式攪拌浅層混合処理工法による地盤改良地業である。この工法は、セメント 系固化材を原地盤と 攪拌混合し、原地盤を固化する方法によって地盤改良を行うものである。

2. 一般事項

本地業は本特記仕様書によるほか、「改訂版 建築物のための改良地盤の設計及び品質管理指針 平成14年11月」((財)日本建築センター、以下指針という))による。

3. 特記事項

- (1)掘削深度、掘削範囲等は設計図書による。
配合等について土質や地盤により変更した方が適切と判断される場合は監督員の承認の上に変更することができる。
(2)設計基準強度は $F_c = 75 \text{ N/cm}^2$ (750 [kN/m²])とする。(200[kN/m²]/安全率0.80×3= 750)
(3)設計の要求する性能を確保するため、適切な配合管理、施工管理および品質検査を実施する。
(4)セメント系固化材を用いた機械式攪拌浅層混合処理工法の専門工事を本工事施工業者とする。
(5)固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することがでる、施工機械を用いる。

4. 施工計画

工事に先立ち、施工計画書を監督員に提出する。施工計画書には次の事項を明記する。

- | | |
|------------------|------------------------------|
| ①地盤概要 | ②工事内容(掘削範囲・掘削深度・改良土量・設計基準強度) |
| ③工事期間及び工程 | ④工事要領(使用固化材・配合) |
| ⑤施工機器および仮設設備と配置 | ⑥配合管理の方法 |
| ⑦施工管理の方法 | ⑧品質検査の方法 |
| ⑨各種作業の主たる従事者の組織表 | ⑩施工記録の方法 |
| ⑪安全対策 | ⑫建築請負業者の本工事責任者 |
| ⑬本工事施工業者及び責任者名 | |

5. 配合管理

- (1)攪拌混合に使用する固化材は一般軟弱土用セメント系固化材とする。
(2)セメント系固化材の配合及び使用量は下記を目安とする。(事前に現状土による室内配合試験を実施し、配合量を決定する)
①固化材料 : ジオセット200同等、ユースタビラー50同等
③添 加 量 : 添加量 50 kg/m³(砂質土(含水比:低)における目安)

6. 施工

- (1)作業地盤は、施工機械が傾斜・転倒しないように養生する。
(2)必要に応じ監督員の立会いのもとで試験打ちを行う。地盤調査地点など地盤の状況が把握できる地点の近くで試験施工を行い、所定の下部地盤に到達した時に次の事項を確認し管理指標値を決定する。
①深さ ②土質・湧水等
(3)基本的な施工手順を以下に示す。施工の障害になる事項が判明した場合は別途協議する。
①掘削区画の割り振り ②所定の掘深度まで掘削する。
③セメント系固化材と混合攪拌する。 ④改良厚さ50cm以下にて中間転圧を行う。
⑤改良天端の不陸整正を行う。 ⑥本工事により排出された残土は場内仮置き又は、別途協議し対応を決定する。

7. 施工機械

- (1)固化材と改良対象土を確実に混合攪拌することができる施工機械を用いる
(2)所定の施工管理項目を計測できる管理機器を用いる。
(3)改良機本体は、本地業の施工仕様を満足できる施工機器を装備したもので、自走式とする。
(4)転圧機械は、十分な転圧効果が得られる機械とする。

8. 施工管理

(1)施工の安定性を確保するために下記に示す項目について施工管理する。

- ①形状・寸法 改良範囲 : 改良範囲は基礎底盤から外側へ所定の寸法以上であることを確認する。
掘削深度 : 計測器にて計測し記録する。
ブロック割: 改良範囲のブロック区割りを行う。

- ②セメント系固化材材料 : 固化材を計量し使用量を記録する。

- ③攪拌混合 攪拌混合 : 固化材の色が目立たなくなるまで十分混合攪拌する。
攪拌混合厚: 1層の厚さは50cm以下とし入念な転圧を行う。

- ④下部地盤 支持地盤の確認は地盤調査資料と掘削時の土質確認を目視にて行う。

- ⑤改良天端処理 所定の仕上がり高さにするため、施工後適切な時期にバックホウ等で削り取って天端処理行う。

- ⑥支持層 本現場の支持地盤は 砂質土 とする。

- (2)施工の立会い 建築工事の請負者は本地業責任者 及び 施工責任者を定め、両者は本地業の施工中は立ち会うものとする。

9. 品質検査

(1)検査対象郡、検査対象層及び調査箇所数

- ①検査対象郡は1区画を1単位とする。
②検査対象郡は施工条件、施工規模、検査方法等を考慮し適切に設定する。
③調査箇所数(検査対象郡に対して)

表2 調査ヶ所表

検査手法	モールド試料	1ヶ所×3本
------	--------	--------

(2)可否の判定

- ①設計対象層についての抜取り1ヶ所に対して3個の供試体を採取し、その平均強度をその個所の強度とする。
②一軸圧縮試験は第三者機関で行うものとする。
③ $X_i \geq F_c$
 X_i : 検査対象層より採取した個々のコアの一軸圧縮強さ(材齢7日)($1 \leq i \leq n$)(KN/m²)
 F_c : 設計基準強度(KN/m²)
 n : コア抜き取り個数
 i : 個々の供試体

9. 報告

工事完了後、次の項目について報告書をまとめ、監督員に提出する。

- | | |
|--------------|-----------------|
| ①改良範囲の伏図 | ②攪拌混合の施工日 |
| ③掘削の範囲 | ④掘削深度 |
| ⑤攪拌混合・転圧状況 | ⑥セメント固化材の配合と使用量 |
| ⑦試料の強度管理試験結果 | ⑧合格判定結果 |

revisions			

consultant

project no.

ロ 上野東町ポケットパーク整備工事

浅層混合地盤改良特記仕様書

S-006

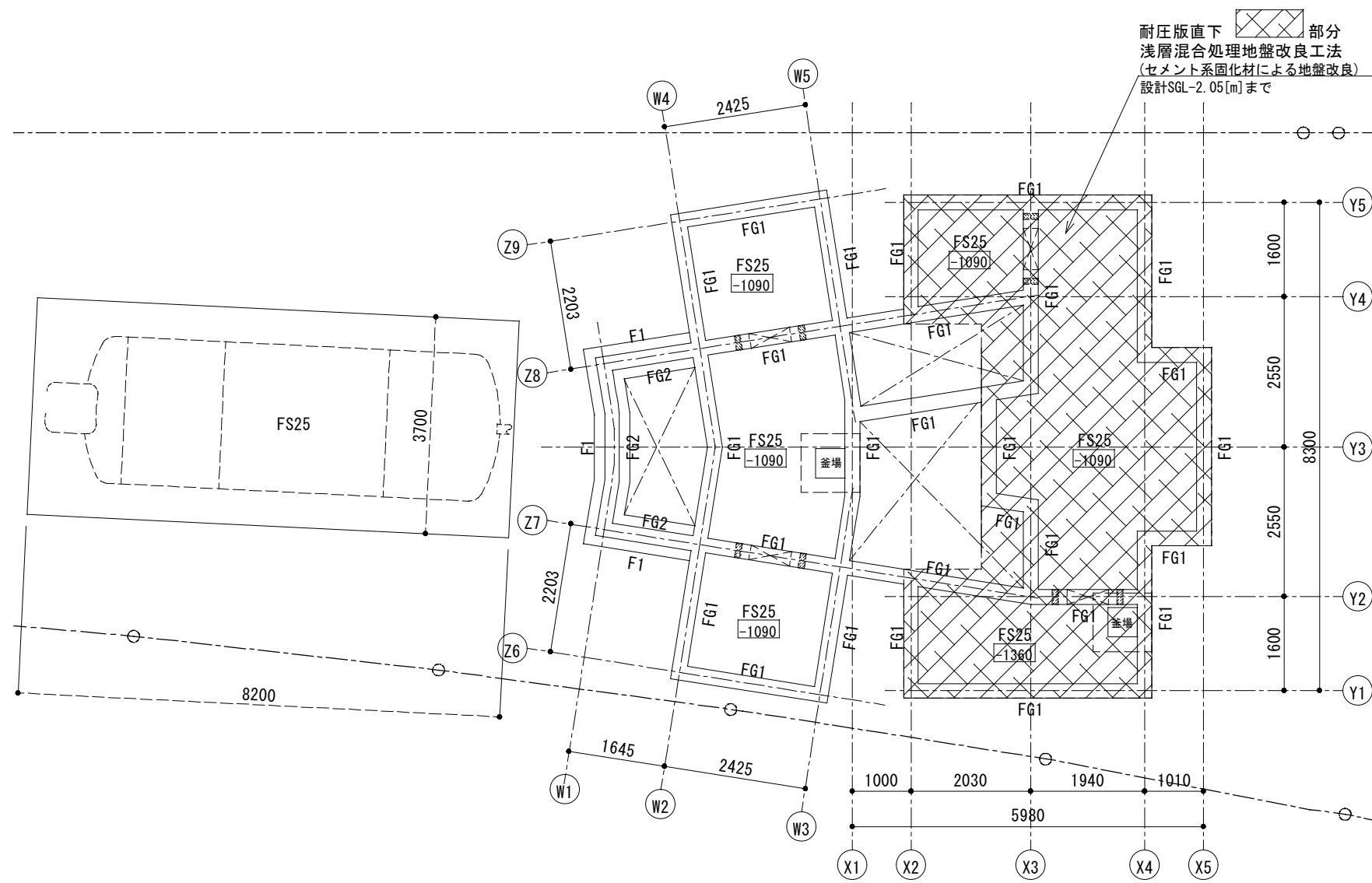
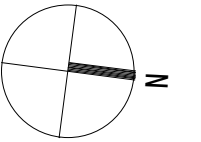
date

drawn by

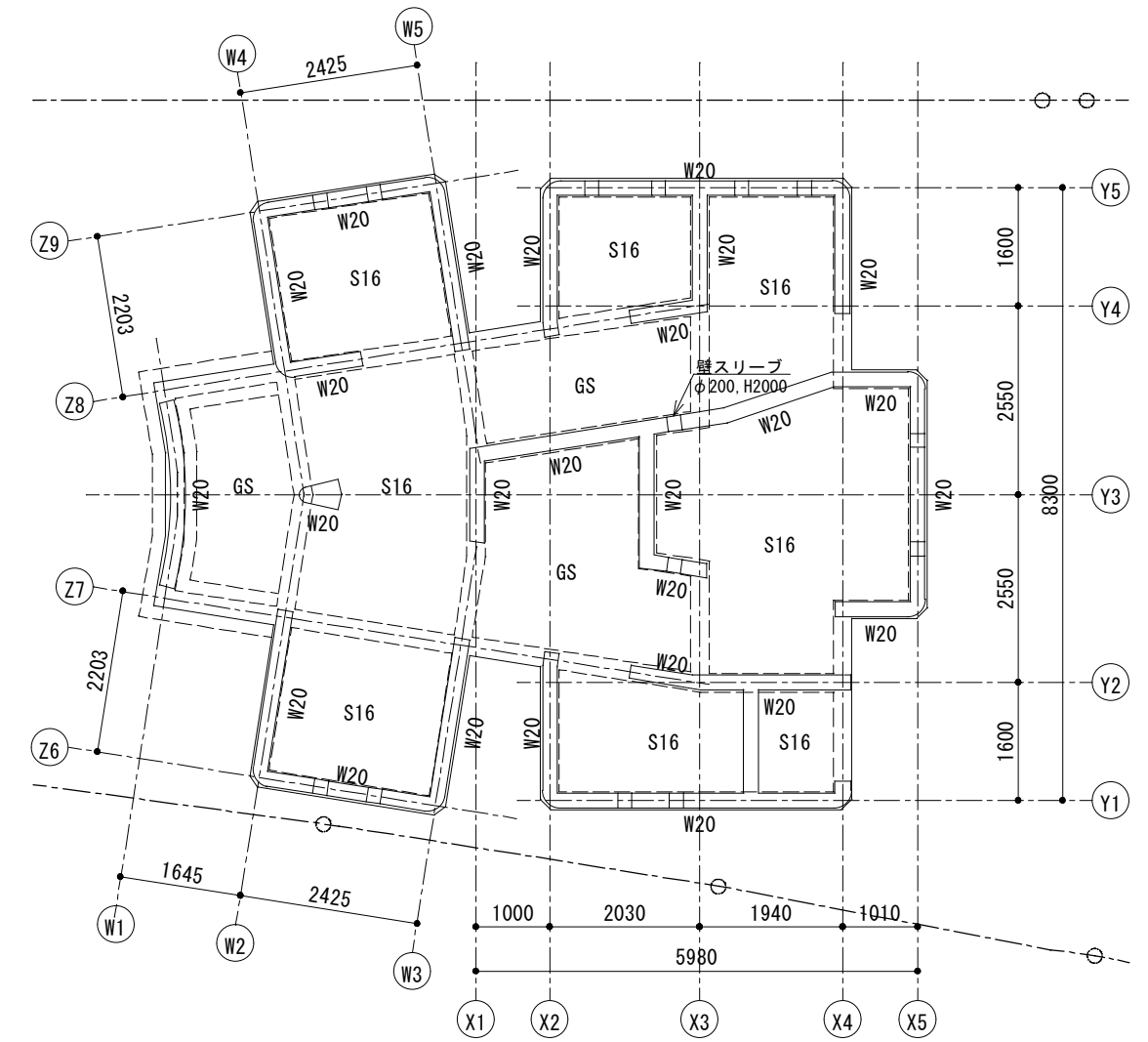
checked by

scale

-



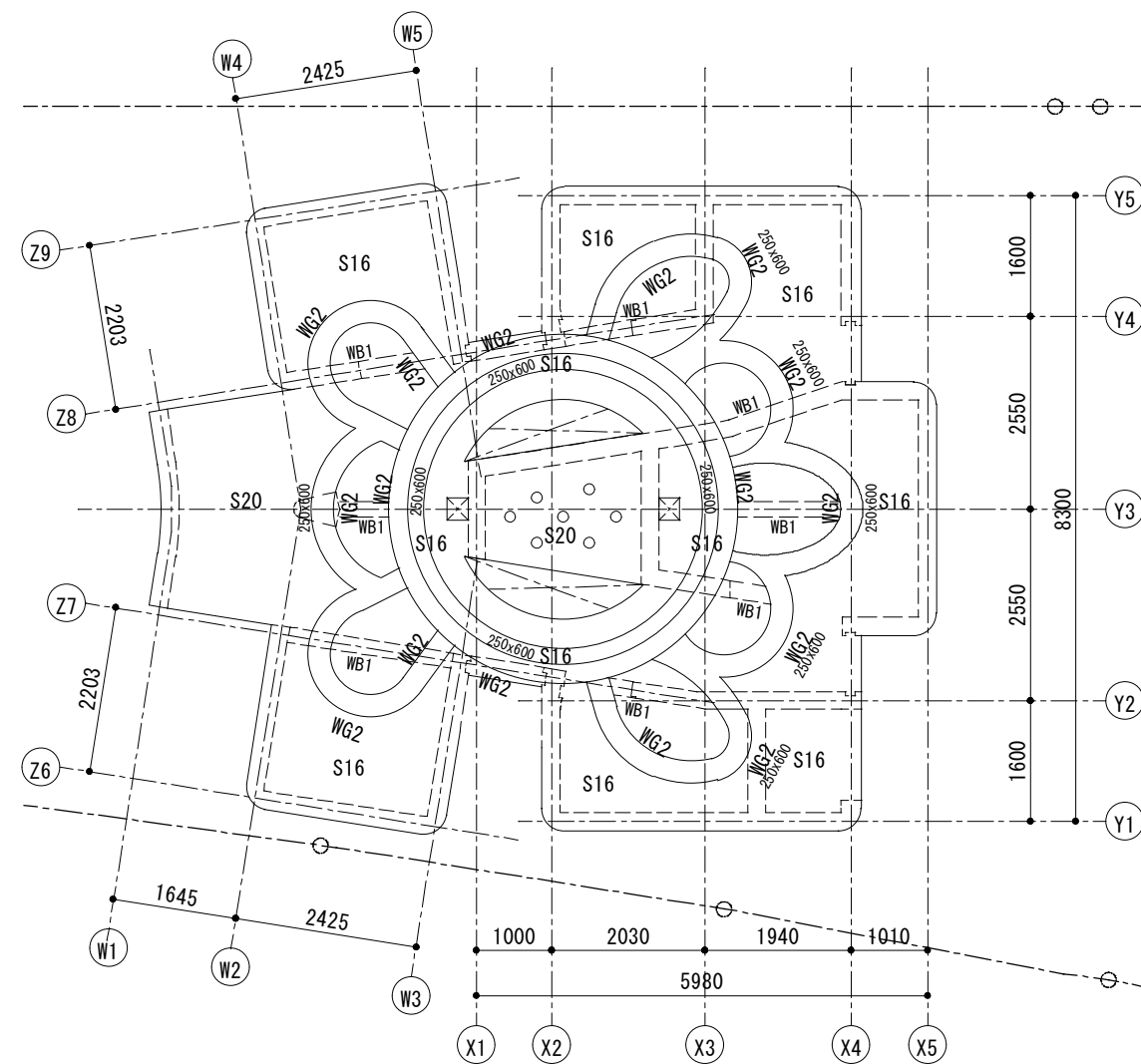
基礎伏図 S=1:100



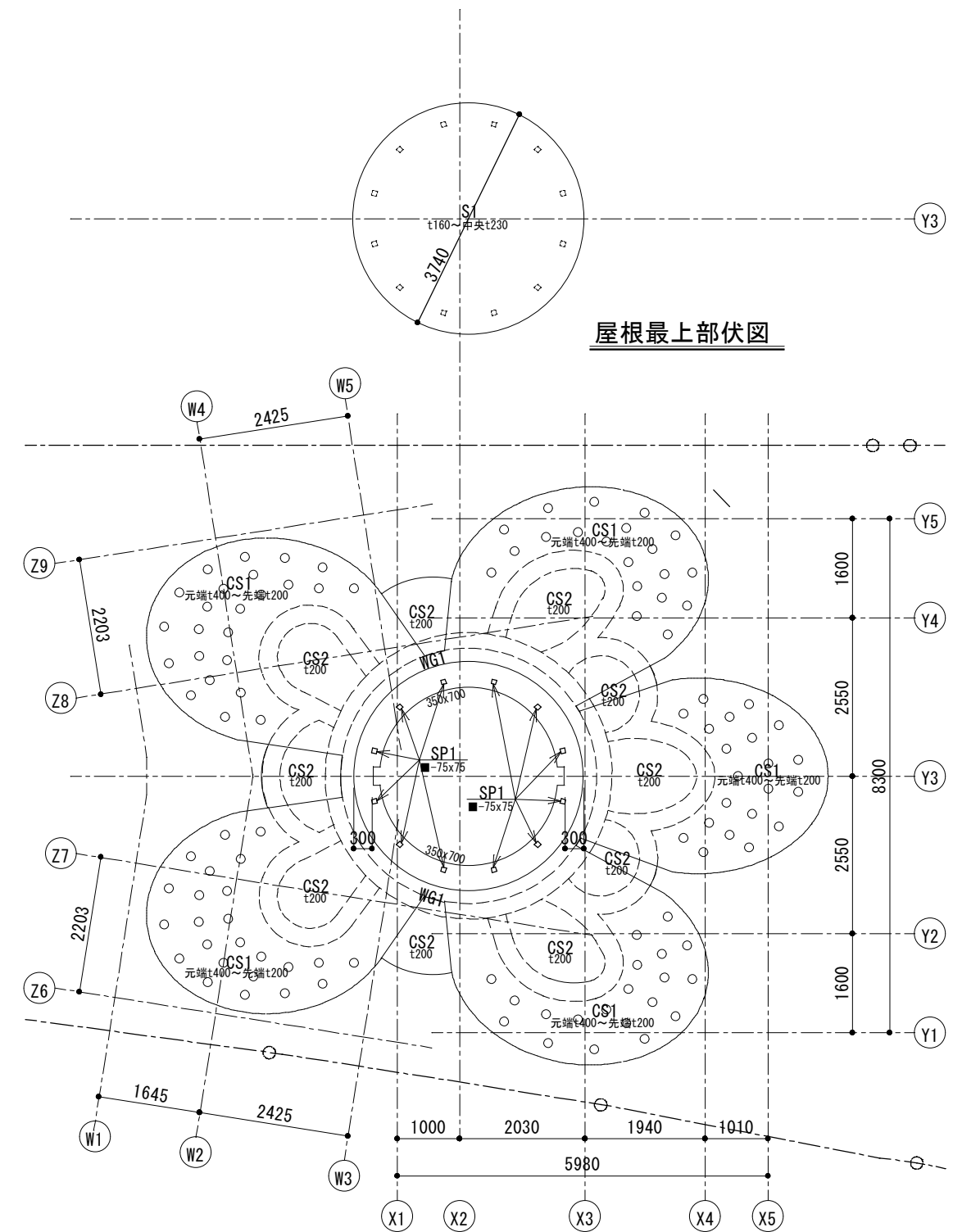
1階伏図 S=1:100

- 共通事項
- は1FLからの天端レベルを示す。
 - 特記なき地中梁天端レベルは、1FL-200とする。
 - 特記なき1階スラブ天端レベルは、1FL-40とする。
 - 増打ち厚さは意匠図による。
 - 外構の土間コン範囲は意匠図による。
 - 土間コンGSは厚さ150[mm]を標準とする。
 - 基礎の出隅の隅切りは意匠図による。

revisions				consultant	project no. 上野東町ポケットパーク整備工事			伏 図 (1)		S-007
								基礎伏図、1階伏図		
						date	drawn by	checked by	scale	
									1:50 (A1) 1:100 (A3)	



屋根伏図 S=1:100



屋根化粧レベル伏図 S=1:100

共通事項

1. 増打ち厚さは意匠図による。
2. SPIはWG1に埋め込み形式とする。
3. CS1小開口廻りに補強筋リング 2-D13^φを配する。
4. WB1は意匠上の小壁を示す。
- 5.
- 6.

revisions			

consultant

project no.

■ 上野東町ポケットパーク整備工事

	date

drawn by

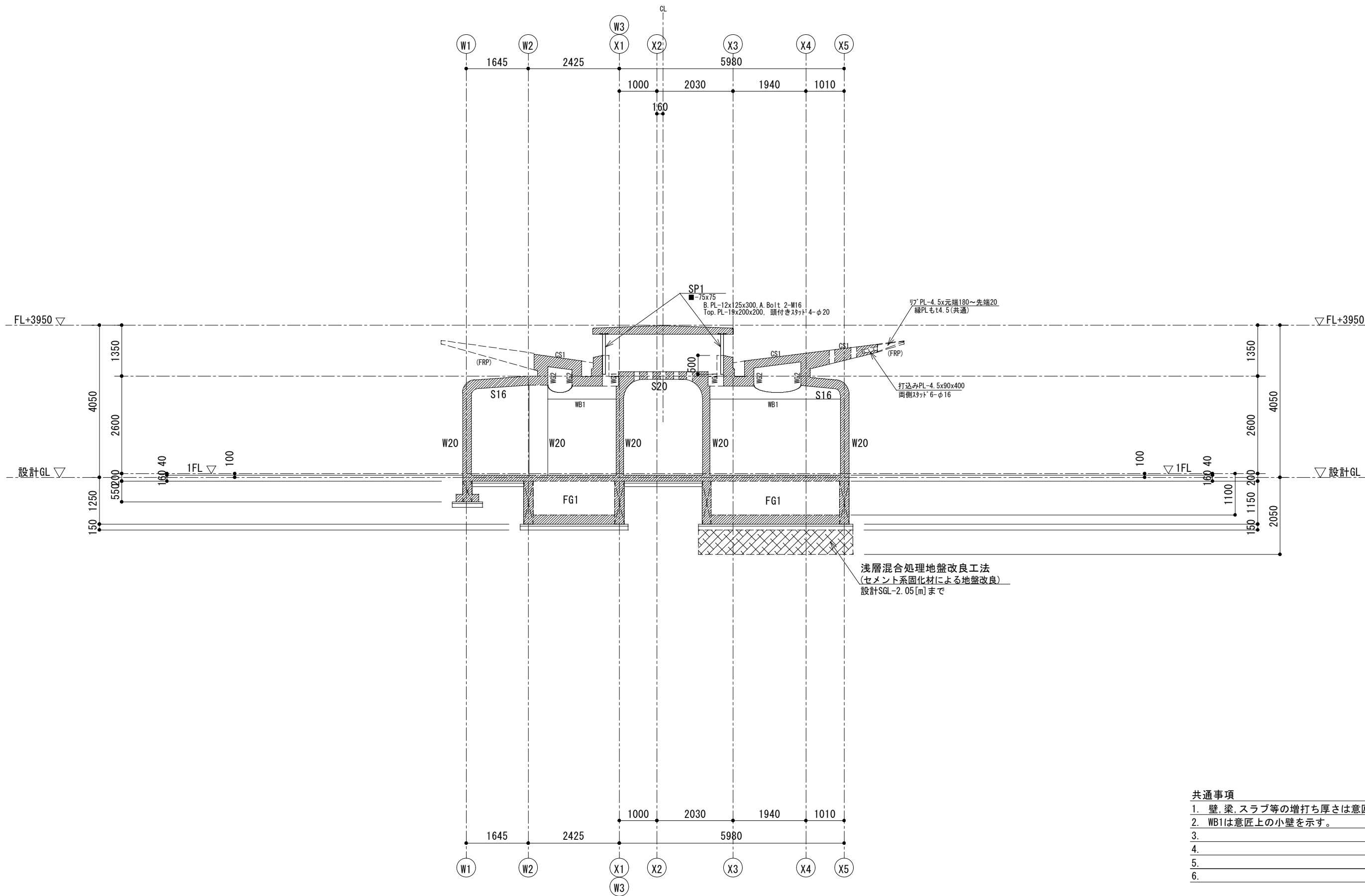
checked by

伏図(2)

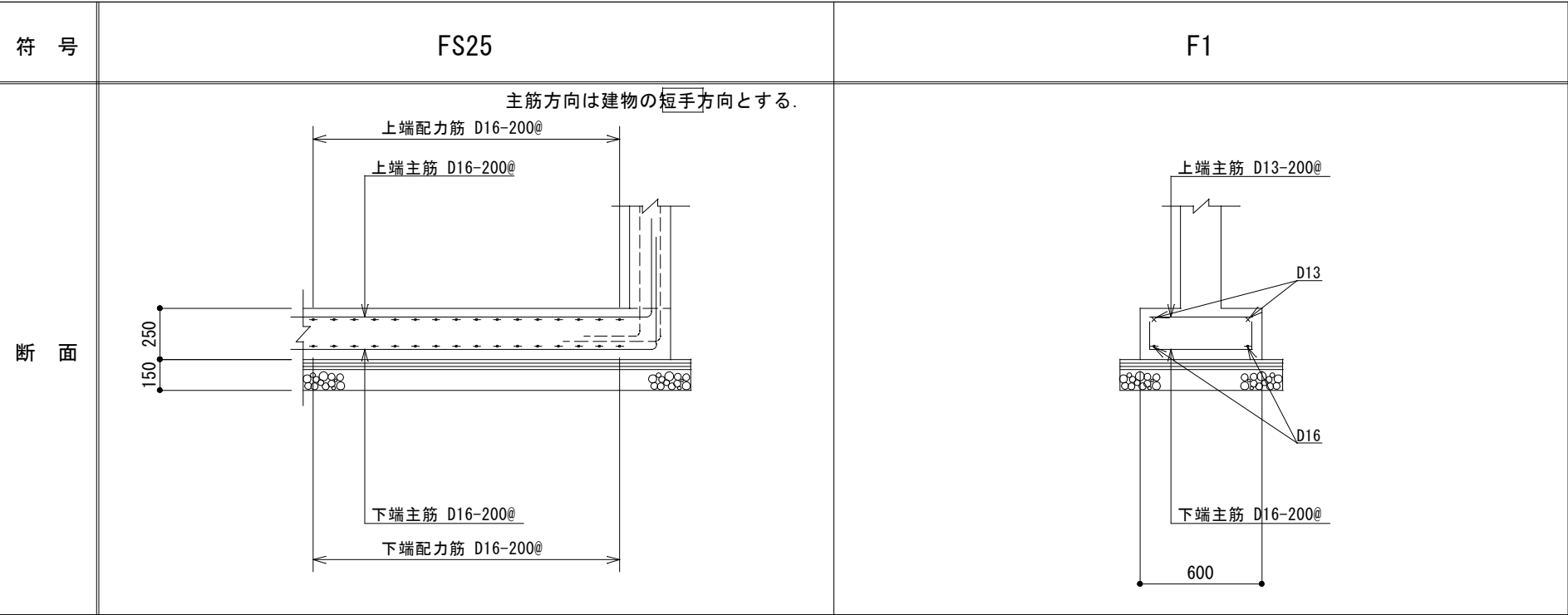
屋根伏図、屋根化粧レベル伏図

scale
1:50 (A1) 1:100 (A3)

S-008

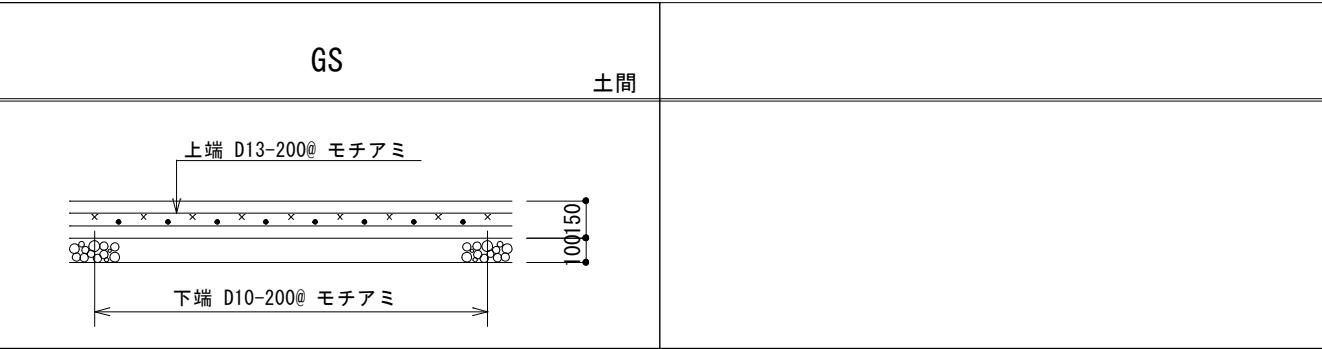


- 共通事項
1. 壁、梁、スラブ等の増打ち厚さは意匠図による。
 2. WB1は意匠上の小壁を示す。
 - 3.
 - 4.
 - 5.
 - 6.



土間コンクリートリスト

S=1:30



符 号	FG1	FG2		
位 置	全断面	全断面		
断 面				
幅xせい	250x1150	250x1150		
上端主筋	4-D16	4-D19		
下端主筋	4-D16	4-D19		
STP	□-D10-150@	□-D13-150@		
腹筋	4-D10	-		
巾止筋	D10-900@	-		

壁配筋リスト S=1:30

符 号	壁厚 (t)	配筋		端部補強 (垂直及び水平断面)		開 口 補 強 および共通でワイヤーメッシュ 6φ-100@x (400x400, 4隅)		
		縦筋	横筋	内壁	外壁	タテ筋	ヨコ筋	ナナメ筋
W20	200	D13@150 ダブル	D10@150 ダブル	4-D13	4-D13	2-D13	2-D10	2-D10

壁端部断面リスト S=1:30

符 号	W20	開口補強 要 領		
位 置	全て			
端部補強	斜め筋及びワイヤーメッシュは 開口要領に拠る。			
			適用開口は b=φ 300[mm] までとする。 それ以上は端部補強を適用する。	
			タテ補強筋 ヨコ補強筋 斜め補強筋	
			リストの開口補強による	
			およびワイヤーメッシュ 6φ-100@x (400x400, 4隅)	

RC梁断面リスト S=1:30

符 号	WG1	WG2	WB1
断 面			
幅xせい	350x700	250x600	200xせい (350～中央200)
上端主筋	4-D19	4-D16	2-D16
下端主筋	4-D19	4-D16	2-D16
STP	□-D13-150@	□-D13-150@	□-D10-100@
腹筋	2-D13	2-D13	2-D13
巾止筋	D10-900@	D10-900@	D10-900@

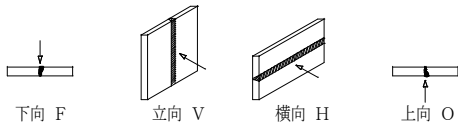
スラブ断面リスト S=1:30

符 号	S16	S20, CS2	CS1	S1
断 面				

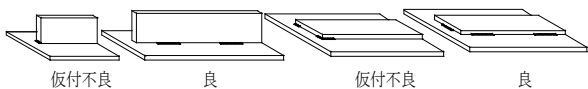
鉄骨構造標準図(1)

1.一般事項

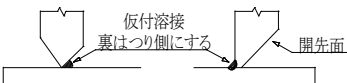
- (1) 材料及び検査
- (a) 構造設計仕様による。
 - (b) 適用範囲は、鋼材を用いる工事に適用し、かつ鋼材の厚さが100mm以下のものとする。
 - (c) 社内検査結果の検査報告書には、鉄骨の寸法、精度及びその他の結果を添付する。
- (2) 工作一般
- (a) 鉄骨製作及び施工に先立って「鉄骨工事施工要領書」を提出し工事監督員の承認を得る。
 - (b) 鋼管部材の分岐継手部の相貫切断は、鋼管自動切断機による。
 - (c) 高張力鋼のひずみ矯正は、冷間矯正とする。
- (3) 高力ボルト接合
- (a) 本編めに使用するボルトと、仮締めボルトの併用はしてはならない。
- (4) 溶接接合
- (a) 溶接技能者
- 溶接技能者は施工する溶接に適應する JIS Z 3801(手溶接) 又は JIS Z 3841(半自動溶接)の溶接技術検定試験に合格し引続き、半年以上溶接に従事している者とする。
- (b) 溶接機器
- (イ) 交流アーク溶接機 300A～500A (ニ) 炭酸ガスアーク半自動溶接機
(ロ) アークエアーガウジング機(直流) (ホ) 溶接電流を測定する電流計
(ハ) サブマージアーク溶接機一式 (ヘ) 溶接棒乾燥機
- (c) 溶接方法
- アーク手溶接(MC) ガスシールドアーク半自動溶接(GC)
セルフ(ノンガス)シールドアーク半自動溶接(NGC)アークエアーガウジング(AAG)
- (d) 溶接姿勢



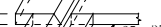
- (e) 組立て溶接技能者は、原則として本工事に従事する者が行う
- (イ) 仮付位置
- 組立て溶接は溶接の始、終端、隅角部など強度上、工作上、問題となり易い箇所は避ける

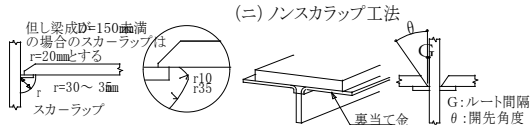


- (ロ) 完全溶込み溶接部の仮付溶接は必ず裏はつり側に施工する



(f) 溶接施工

- (イ) エンドタブ
- Ⅰ 完全溶込み溶接、部分溶込み溶接の両端部に母材と同厚で同開先形状のエンドタブを取り付ける。
- Ⅱ エンドタブの材質は、母材と同質とする。
- Ⅲ エンドタブの長さは、MC:35mm以上、35mm以上
か+2t以上
エンドタブ
- NGC、GC:40mm以上とし、特記のない場合は溶接終了後、母材より10mm程度残し切断し、グラインダー仕上げとする。
- Ⅳ プレス鋼板タブ、固形タブ等の使用については、資料を提出して工事監督員の承認を得る。
- (ロ) 裏あて金
- 材質は母材と同質材料とし厚さは手溶接で6mm、半自動溶接で9mm以上とする。
- (ハ) スカーラップ半径は30～35mmと10mmのダブルアールとする。



- (ホ)裏はつり
規準図の溶接においてAAGと記載のある部分は全て、溶接監督員の確認を履行し、部材に確認マークをつける。
- (ヘ)現場溶接の開先面には、溶接に支障のない防錆材を塗布する。
又、開先部をいためない様に、養生を行なう。

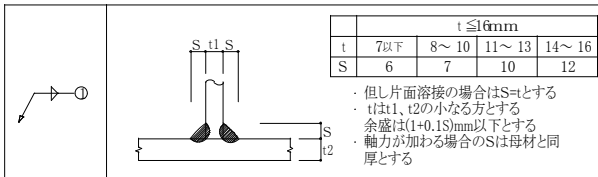
(5) 塗装

コンクリートに埋め込まれる部分及びコンクリートとの接触面で、コンクリートと一体とする設計仕様になっている部分は、塗装をしない。

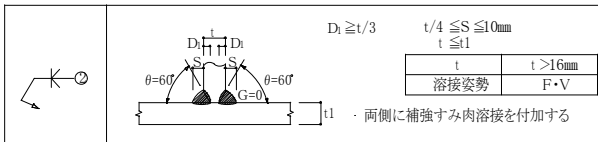
2.溶接規準図

注): f 余盛 G ルート間隔 R フェース S: 脚長 単位mm)

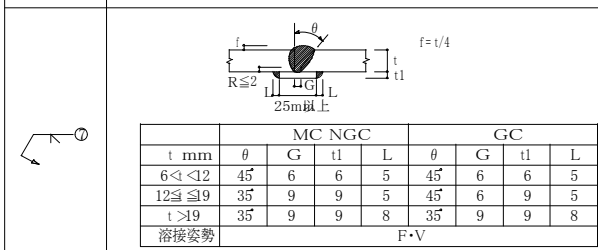
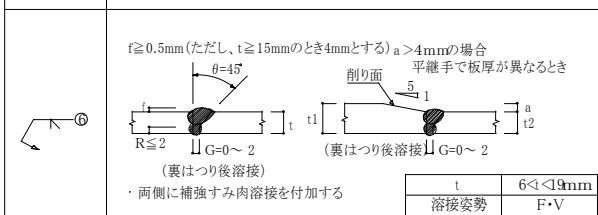
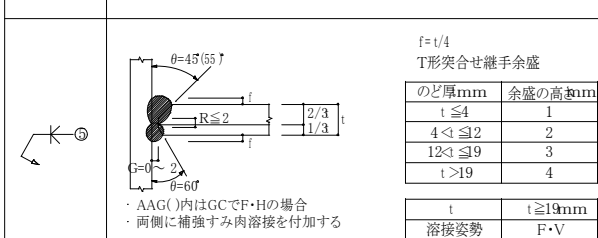
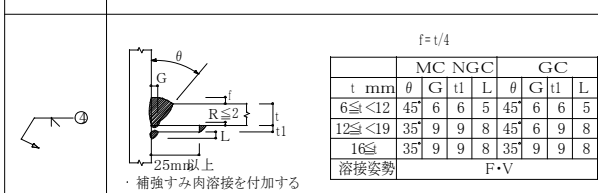
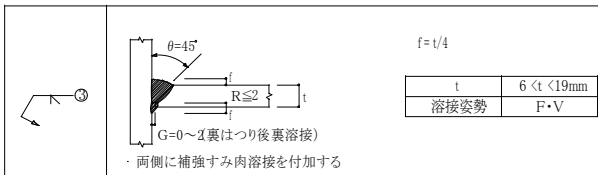
- ### (1) 隅肉溶接



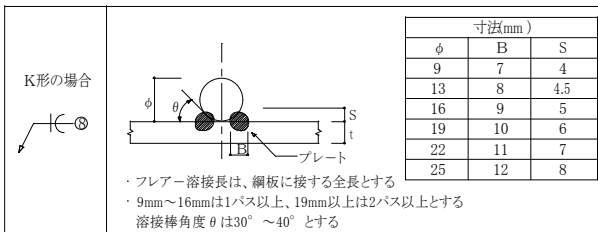
- (2) 部分溶け込み溶接使用箇所にご注意)



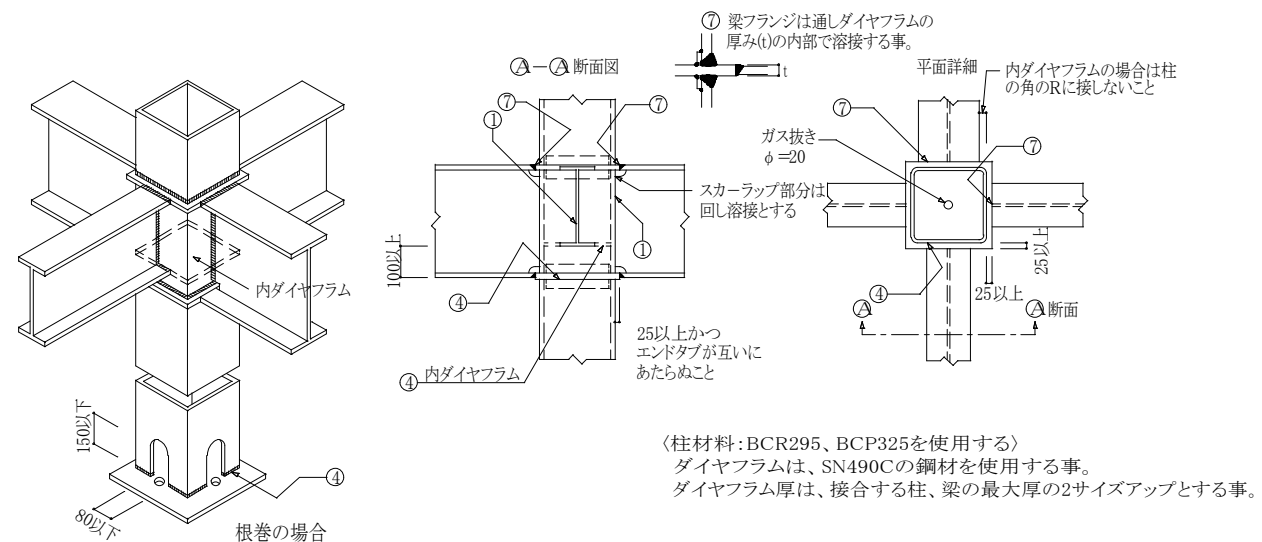
- (3) 完全溶込み溶接継手 T形継手)



- #### (4) フレアー溶接

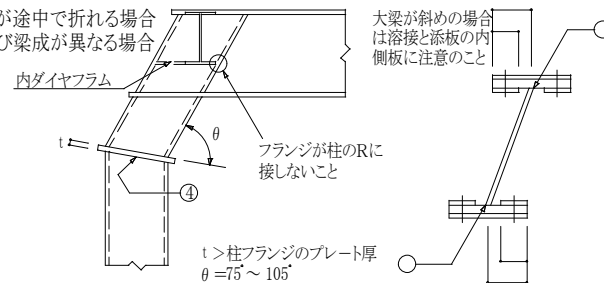


BOX型 (通しダイヤフラムとする)

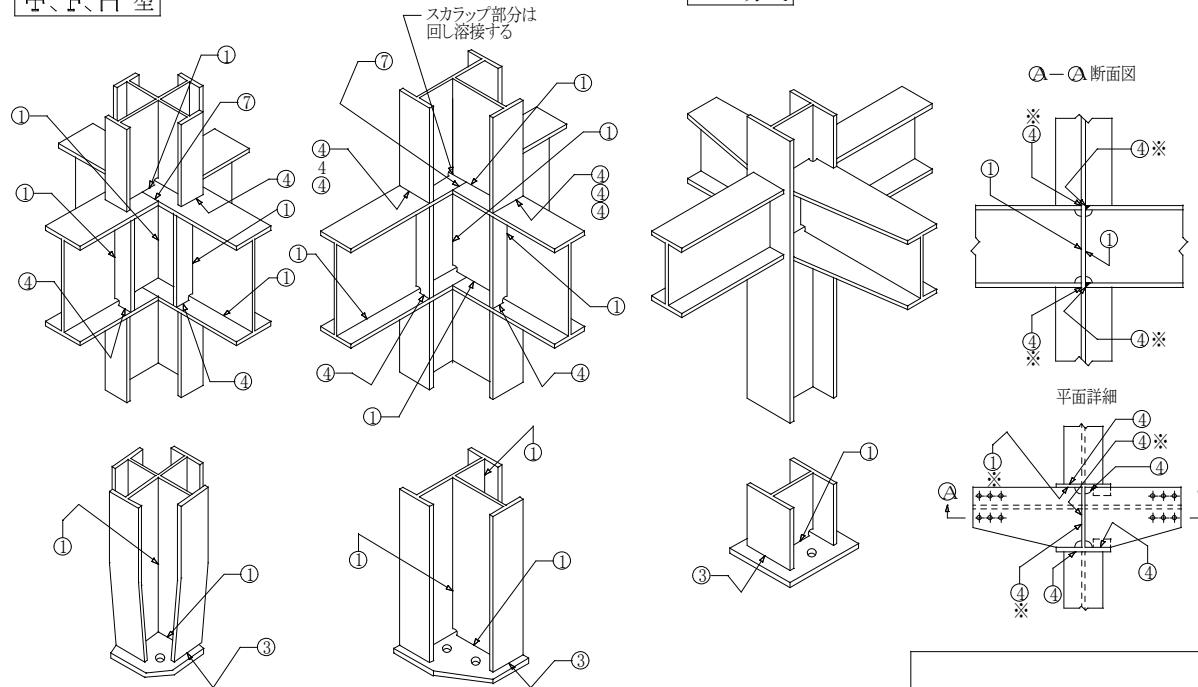


鋼材種別による溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱(kJ/cm)	バス温度差(℃)
400N級鋼	JIS Z 321,3212,3214	40以下	350以下
	YGW-11,15		
	YGW-18,19		
	YGA-50W,50P		
490N級鋼	JIS Z 3212,3214	40以下	350以下
	YGW-11,15	30以下	250以下
	YGW-18,19	40以下	350以下
	YGA-50W,50P		



十、H 型

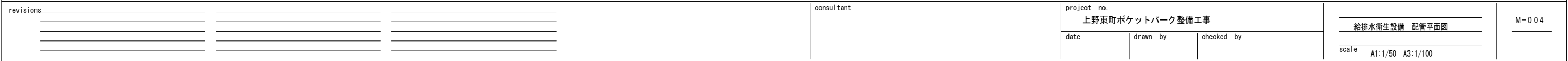


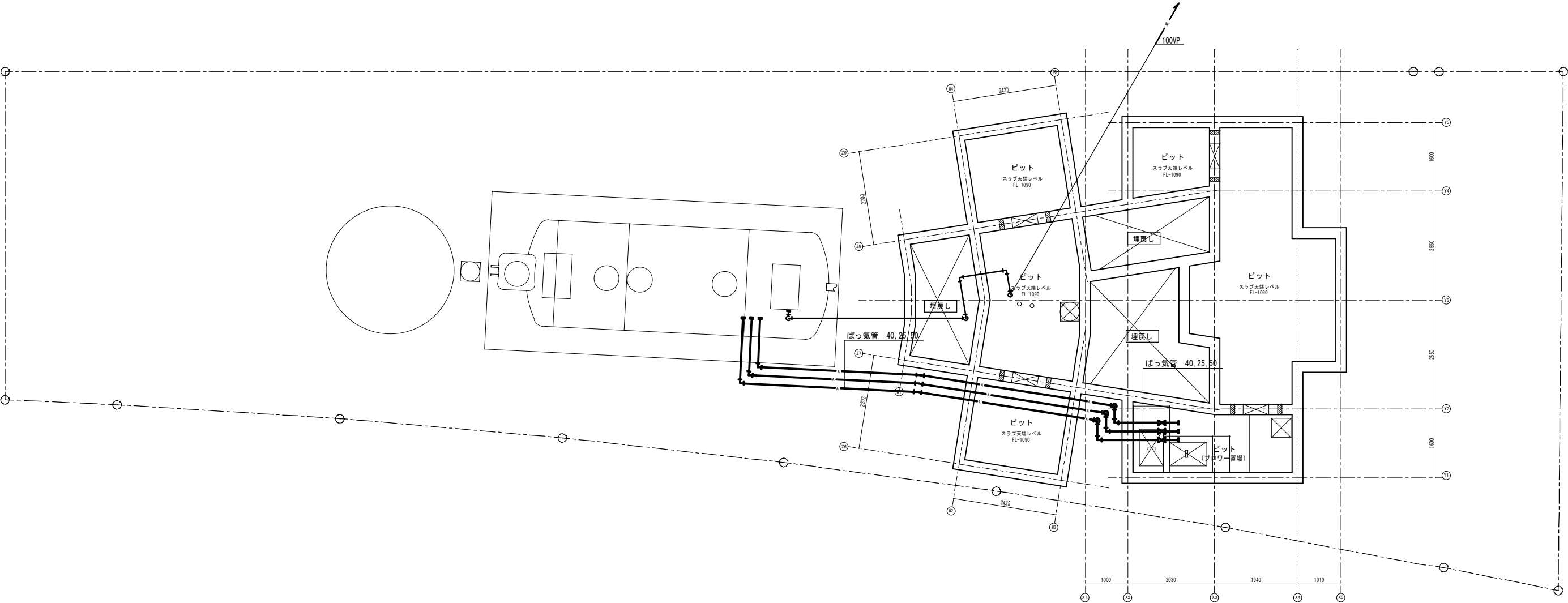
仕口部プレートの材質は、取り合う柱・梁部材と同等以上とする。
仕口部プレートの寸法は、取り合う柱・梁部材の最大厚のプレートと同幅・同厚以上とする。

機 器 表			電 気 60Hz				台数	設置場所	備 考
記 号	機 器 名 称	仕 様	φ-V	V	kW	起動			
EHW-1	電気温水器	型 式：床置形	1	200	1.5	L-S	1	授乳室	ESD12(付ミツ)
		仕 様：飲雑両用、25L、ウィークリータイマー付							
		付属品：止水栓、開放式排水ホッパー、他標準付属品一式							

器 具 表			注記 1. リモコンスイッチの取付け、配管及び配線は本工事とする。 注記 2. カウンター式洗面器のカウンター及び化粧鏡は、別途工事とする。																									
器 具 名 称	参 考 品 番 (LIXIL)	仕 様 ・ 付 属 品	合 計	1 階											屋 外	備 考												
				男子 トイレ	女子 トイレ	多 機 能 トイ レ	授 乳 室																					
洋風大便器	C-P12P	自動フラッシュバルブ、タッチスイッチ、シャワートイレ、紙巻器 他標準付属品一式	3	1	2																							
					2																							
センサー体形小便器	U-A11AP	センサー体形ストール小便器（低リップタイプ）	2	2																								
小便器用手摺	KF-H701AE		1	1																								
洗面器	L-C21A3	電温・乾燥機能・水石鹸機能付洗面器（AC100V1250W）、かんたたび、他標準付属品一式	4	2	2																							
洗面器用手摺	KF-312S55		2	1	1																							
多機能トイレバック	PTWC-AC181R1WWW	自動フラッシュバルブ(大便器)、ウォシュレット(AC100V 1300W)、 洗面器(電温付 AC100V 700W)、汚物流し(電温付 AC100V 700W)、他標準付属品一式	1		1																							
掃除用流し	S-202A	LF-7E-19(給水栓)、他標準付属品一式	1		1																							
授乳台	(建築工事)	Combi GH22-3	1				1																					
			1	1																								
散水栓(水栓柱共)	LF115G	横水栓、SUS製水栓柱(900H)	1																		1							
					</																							

樹 リ ス ト						
N o.	形状・寸法 (mm)	樹深さ (mm)	管底 (mm)	地盤高 (mm)	樹 蓋	備 考
公-1		900				取付管 150
【汚水樹】						
S-1-1	200 φ	500	500	-	錆鉄蓋	小口径塩ビインバート樹
S-1-2	200 φ	540	540	-	錆鉄蓋	小口径塩ビインバート樹
S-1-3	200 φ	570	570	-	錆鉄蓋	小口径塩ビインバート樹
S-1-4	200 φ	600	600	-	錆鉄蓋	小口径塩ビインバート樹
S-1-5	200 φ	640	640	-	錆鉄蓋	小口径塩ビインバート樹
S-1-6	200 φ	660	660	-	錆鉄蓋	小口径塩ビインバート樹
S-1-7	500 x 500	680	680	-	化粧蓋	コンクリート樹 (SB)
S-1-8	500 x 500	740	740	-	化粧蓋	コンクリート樹 (SB)
S-2-1	200 φ	500	500	-	塩ビ蓋	小口径塩ビインバート樹
S-2-2	200 φ	550	550	-	塩ビ蓋	小口径塩ビインバート樹
S-2-3	500 x 500	580	580	-	化粧蓋	コンクリート樹 (SB)
S-3-1	200 φ	600	600	-	錆鉄蓋	小口径樹
S-3-2	200 φ	640	640	-	錆鉄蓋	小口径樹
S-3-3	200 φ	750	750	-	錆鉄蓋	小口径樹
【雨水樹】						
R-1-1	500 x 500	540	390	-	化粧蓋	コンクリート樹 (RB)
R-1-2	500 x 500	560	410	-	化粧蓋	コンクリート樹 (RB)
R-1-3	200 φ	630	480	-	錆鉄蓋	小口径樹
R-1-4	200 φ	690	540	-	錆鉄蓋	小口径樹
既設側溝			550			





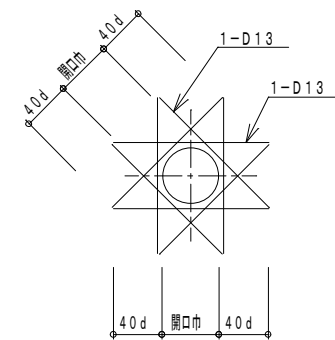
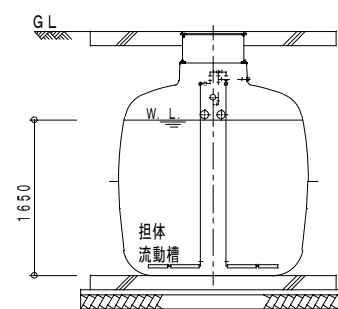
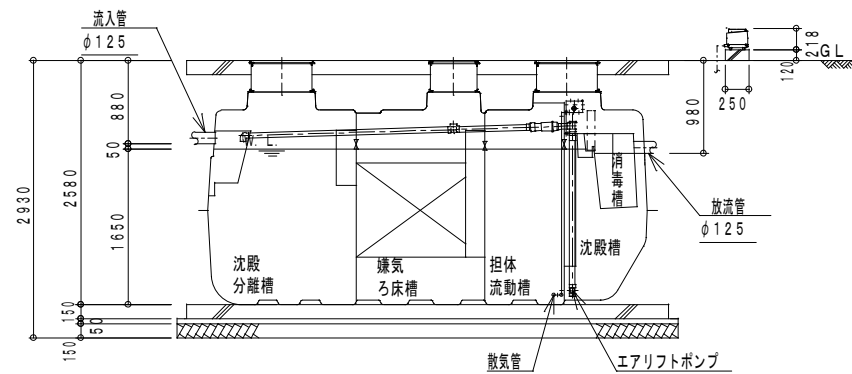
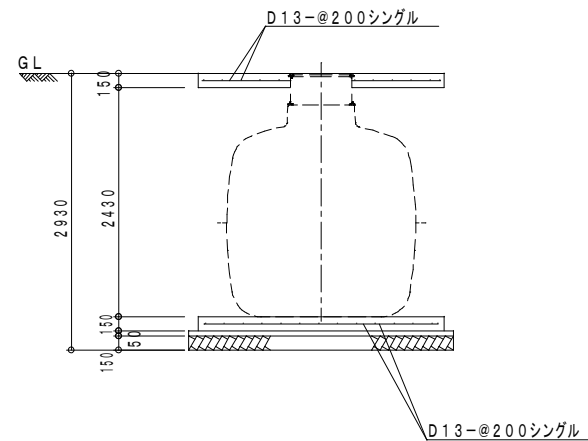
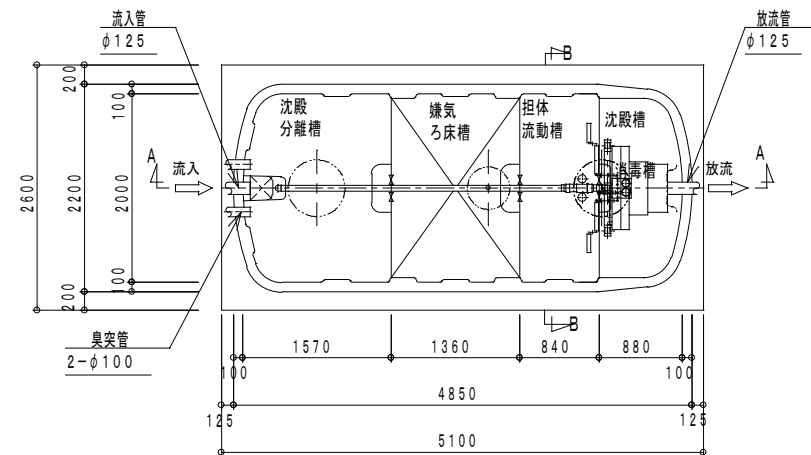
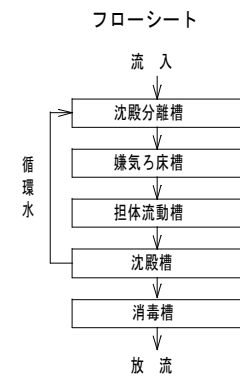
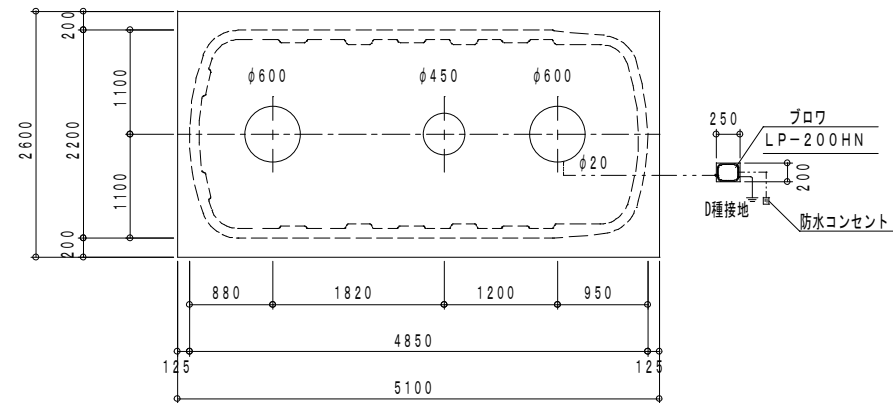
revisions		

consultant	

project no. 上野東町ポケットパーク整備工事		
date	drawn by	checked by

給排水衛生設備	ピット配管平面図
scale A1:1/50 A3:1/100	

M-005
M-00



建築基準法第68条の2第1項の規定に基づき、同法施行令第35条第1項の大臣認定による分離嫌気ろ床担体流動方式				
型式認定	番号	5-14K-H-009-7		
	年月日	平成26年10月1日		
型式適合認定	番号	型01CadOa0404080		
	年月日	平成22年6月11日		
型 式		フジョシ浄化槽 FCD-X40型		
処理対象人員		40人		
日平均汚水量		8.0m ³ /日		
流入水質		BOD200mg/L COD100mg/L SS160mg/L T-N45mg/L		
放流水質		BOD 20mg/L COD 30mg/L SS 20mg/L T-N20mg/L		
容 量 表				
項 目		設計容量		
沈殿分離槽		4.669 m ³		
嫌気ろ床槽		4.340 m ³		
担体流動槽		2.681 m ³		
沈殿槽		2.006 m ³		
消毒槽		0.115 m ³		
総容量		13.811 m ³		
機器仕様表 (単相・100V)				
機器名	口 径	入 力 (60Hz)	吐 出 量 (60Hz)	台 数
プロワ	φ20	0.215kw	0.20 m ³ /min	1台
一 般 事 項				
コンクリート		設計基準強度 FC=21N/mm ²		
鉄 筋		異形棒鋼 SD295A		
定着及継手		40d d:鉄筋径		

※管理用水栓は10m以内に設置すること(浄化槽工事範囲外)
※全高にはかさ上げ300H含む
※無荷重

[illegible]

○LEDダウンライト

790lmタイプ、消費電力：11.2W
3000K

M3ネジ

パーツB

パーツA

M4六角面ねじ

設置イメージ図

実図

断面図

側面図

見上げ図

推奨距離2.0m以内

接続参考図

PrevaLEDCoin50 同等品

LED: PrevaLEDCoin50
3000K 790lm 350mA 11.2W 光角40°
リード線L300

カバープレート:
アルミ バイブレーション

側面開口φ100

側面ネジφ6.4

M4六角面ねじ

凡 例		
記 号	名 称 ・ 仕 様	備 考
○	ダウンライト	
○	ブラケット	
●A.S	自動点滅器	3A
●A.S	人感センサー壁付	パナソニックWTK3481同等品
●L	埋込スイッチ+埋込スイッチ（表示灯付）	2P15A×1+2P15A×1（表示灯付）
●	露出スイッチ	パナソニックWS3001W同等品
□	電源トランス盤 400×600×120	日東工業B14-69L同等品
□	アウトレットボックス	中浅形
■	電灯盤	
□	中間取付ダクトファン	（機械工事）
□	天井埋込空換気扇	（機械工事）
配管・配線凡例		
— 天井埋込 隠蔽配管・配線		
特記無き配管・配線は下記による		
—	EM-EEF1.6-3C	(PF22) (E25)
—	EM-EEF2.0-2C	(PF22) (E25)
—	EM-EEF2.0-3C	(PF22) (E25)
VCTF	VCTF2'-2C	(PF22) (E25)
電源トランス盤内のEM-EEF2.0-3Cケーブルを見込むこと。		

●A.S 壁取付 熱線センサ付自動スイッチ（観器）

8A 100V AC

76.8

53.3

120.8

パナソニック WTK3481 同等品

TR盤

600

20

900

100 (両面壁付)

15

140

日東工業B14-69L同等品

露出スイッチ

34.1

2.0

4.8

パナソニックWS3001W同等品

revisions			

consultant

project no.
上野東町ポケットパーク整備工事

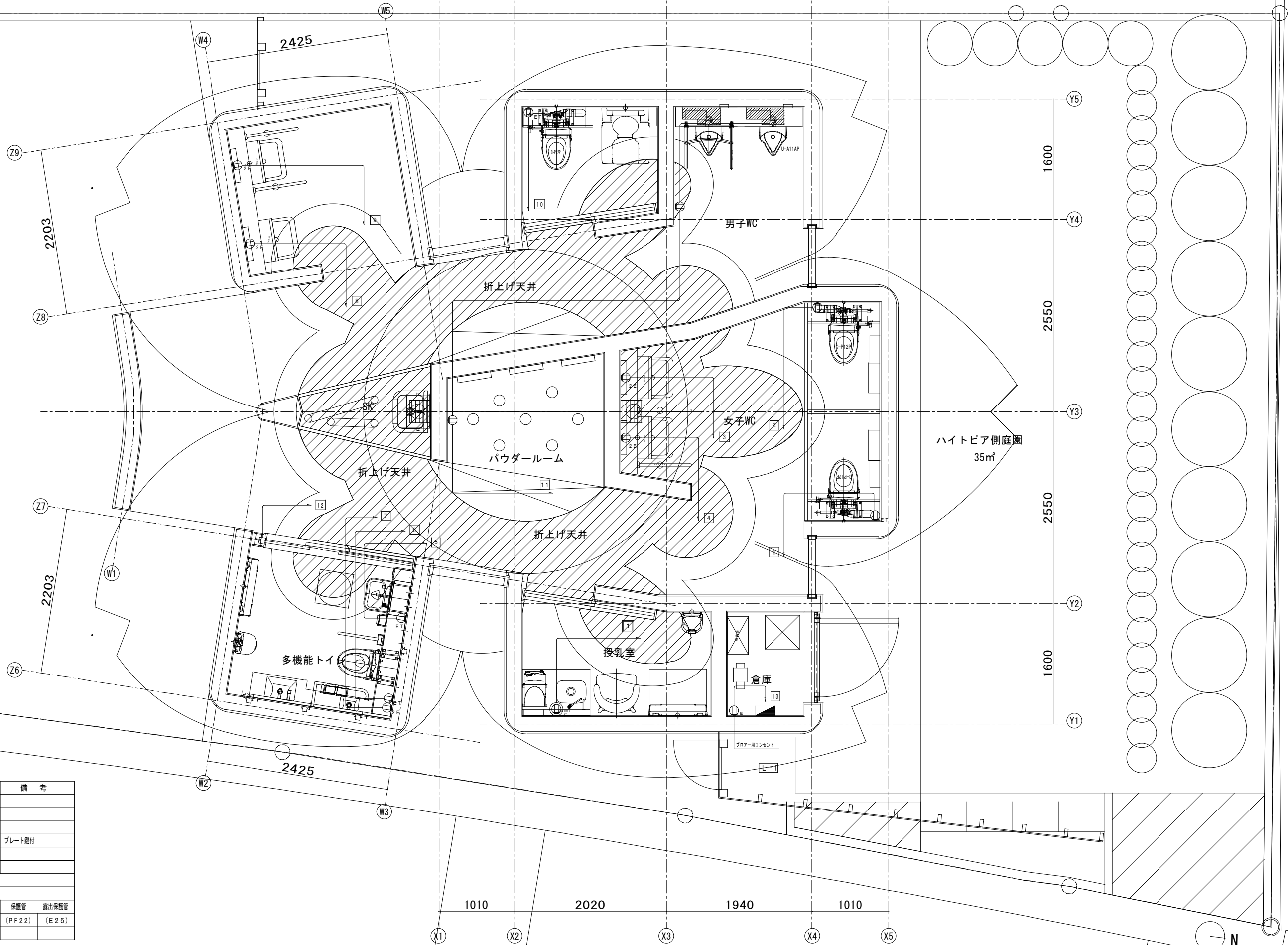
date drawn by checked by

電灯（照明）設備 平面図

-

scale 1/25 (A1)・1/50 (A3)

E-005



凡 例		
記 号	名 称 ・ 仕 様	備 考
① _{EY}	埋込コンセント 2P15A x 1 ET付	
① _E	埋込コンセント 2P15A x 1 E付	
① _{2E}	埋込コンセント 2P15A x 2 E付	
①	埋込コンセント 2P15A x 1 E付	プレート付
① _E	埋込コンセント 2P15A x 1 250V E付	
⬢	電灯動力盤	
配管・配線凡例		
——	天井埋込 隠蔽配管・配線	
特記無き配管・配線は下記による		保護管 露出保護管
——	EM-EEF2.0-3C	(PF22) (E25)
——		

revisions			

consultant

project no.

ロ 上野東町ポケットパーク整備工事

date

drawn by

checked by

コンセント設備 平面図

scale 1/25 (A1)・1/50 (A3)

E-007

天井LED間接照明詳細図

S=1/3

平面図 S=1/1

B-B 断面図 S=1/1

A-A 正面図 S=1/1

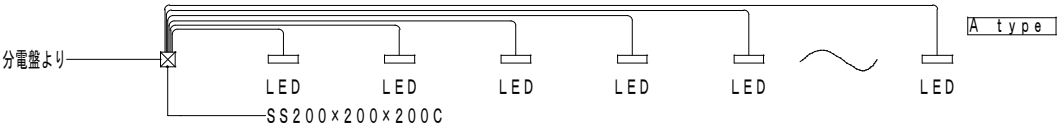
C-C 断面図 S=1/1

D-D 断面図 S=1/1

P-Conライト

(照明器具・トランス、及び照明器具取付は本工事 1次配線・配管は電気設備工事)

代表結線図



P-Conライト 1セットに配線5mのものが7台

LED AC100V 3200K 3W 300lm
7台/1set 62set

アルミ打込BOX アクリルレンズカバー付
W25×H25×D30

IM-1E1.6x2 (CD14)

※ 埋込照明開口補修はナシとする

revisions			

consultant

project no.

上野東町ポケットパーク整備工事

date

drawn by

checked by

天井LED間接照明詳細図

-

scale
N/S

E-008